

## 第3回国際委員会講演会

日時:11月10日(金) 場所:名古屋市内 参加者:委員長の犬島副会長をはじめ34名

テーマ

### イラン・サウジアラビアを中心とした中東情勢

講師 丸紅(株) 経済研究所 シニア・エコノミスト **常峰 健司 氏**

プロフィール 2008年、丸紅入社。2010年、財務省財務総合政策研究所に外向。  
2014年に丸紅ヨハネスブルグ支店に駐在し、2017年より現在に至る。



#### 講演要旨

##### プロローグ

核開発合意が成立し、イランへの経済制裁が解除された2016年はイランイヤーだったと言える。ビジネスを進めていこうという機運が上がったが、トランプ政権が成立してスタンスが変わってしまった。経済制裁が解除されたという状況には変わらないが、トランプ氏が選挙戦から「それを見直す」と示唆しており、徐々に実行されそうな雰囲気になるにつれ、その機運が下がっていった。一方、サウジアラビアでは、2017年に入ってからカタールとの断交、また皇太子交代、王族を含めた汚職摘発が起り、政治状況を中心に動きが出ている。

##### 中東概観

##### (1) 経済

経済規模が大きいのはトルコ、サウジアラビア、イラン、UAE、エジプト、イスラエル。一人当たりGDPを見るとカタールが突出して約6万ドル、それに続き、イスラエル、UAEが3万7,000ドルほどで日本と同レベルとなる。経済規模は大きいものの一人

一人当たりGDP比較

	GDP	人口	一人当たり
	US億ドル	万人	USDドル
カタール	1,567	258	60,736
アメリカ	193,621	32,544	59,495
日本	48,844	12,670	38,550
UAE	3,714	986	37,667
イスラエル	3,184	854	37,283
クウェート	1,100	423	26,005
バーレーン	319	132	24,167
中国	119,375	139,099	8,582
インド	24,390	131,695	1,852

出所:IMF Data Base 2017/Oct

当たりGDPが低いイラン、エジプトなどは、消費財を中心としたモノを売りやすく、また今後復興が進んでくればイラクは大いに期待できる。

##### (2) 歴史・宗教

第一次世界大戦時の英国の中東外交政策において結ばれたサイクス・ピコ協定は、中東人口の1割を占めるクルド人を内包するオスマン帝国領の分割協定であるが、玉虫色の内容であるが故に三枚舌外交とも言われ、中東における地政学的問題を複雑にさせている。ISの誕生はこの協定が今日の問題の根幹との指摘もあるが、もちろん中東の覇権と石油をめぐる争いも問題の根幹である。世界のイスラム人口の8割がスンニ派でシーア派は少数である(但し、インド・東南アジアを除くと中東では両派は拮抗)。イラン(シーア派)とサウジアラビア(スンニ派)は宗教的正当性を巡って対立している訳でなく、対立は政治的・経済的な側面から発生。1979年のシーア派によるイラン革命の成功以降、国内にシーア派を擁する近隣のスンニ派政権国においてシーア派に対する警戒感が高まっている。その一方で、経済的・政治的劣位におかれたシーア派

イスラム人口に対するシーア派比率と指導者層

	多数派	シーア派率	指導者層	
イラン	シーア派	90-95%	シーア派	ハメネイ師
イラク	シーア派	65-70%	シーア派	アバディ首相
バーレーン	シーア派	65-75%	スンニ派	王家
アゼルバイジャン	シーア派	65-75%	-	アリエフ大統領
レバノン	シーア派	45-55%	キリスト教	アウン大統領
イエメン	スンニ派	35-40%	スンニ派	ハーディー大統領
クウェート	スンニ派	20-25%	スンニ派	サバーハ首長家
シリア	スンニ派	15-20%	シーア派	アサド一族

出所:常峰氏の講演資料をもとに作成

によるスンニ派政権に対する反政府活動などが勃発し、「宗派対立」の図式に発展した。近年はイラクでのシーア派政権樹立、イランの経済力回復、イエメン内戦等、各地でシーア派の勢力が拡大してスンニ派の懸念が高まっている。

## イラン

### (1) 概況

「ペルシャ」という名で紀元前から存在し、1935年に「イラン」へ国号を変更した。サウジアラビアとは違い長い歴史をもった誇り高い国。首都テヘランは東京と同緯度で四季があり自然も豊かで国力も高い。多くの国と接しており地政学的にも重要な位置にある。英国が18世紀にインドと貿易するに当たり、ペルシャ湾は交易に重要であった。米国による核開発関連制裁解除に伴い、経済活動が加速している。

### (2) 政治・経済

中東の中では非常に民主的な体制。国の最高指導者は宗教学者88名で構成される「専門家会議」で選ばれ、その宗教学者、さらには行政の長である大統領も直接選挙で選任される。大統領選挙は4年に一回行われ、任期は連続2期まで。1981年以降8年ごとに代わっており、今回の国政選挙の2020年までは大きな変化はなく、国政は安定している。経済に関して、2016年にはGDPが前年度比12.5%の高成長を記録、経済制裁解除に伴う原油輸出の増加や自動車を中心とした製造業の回復によるところが大きい。2017年は大統領選挙で改革・開放路線が維持されることがはっきりしたので3%以上の経済成長が見込まれる。経済の特徴は産油国でありながらGDPのうち、石油・ガスの占める割合は9%程で農林水産業10.6%、製造業12.5%等バランスが良く取れているところにある。核開発による米国制裁のうち、米国人以外への二次制裁の多くは解除されるも、取引先が米国の制裁対象外であることの確認が困難なため、欧州の大手銀行はイランとの取引を再開しておらず、ファイナンス面の制約は当面継続が予想される。一方、ドル決済を回避しながら欧州・中国・韓国企業の

進出は加速し、天然ガス田の開発合意、自動車メーカーの生産拡大などの大型案件を含め、直接投資の流入増加が期待される。

## サウジアラビア

### (1) 概況

1932年成立で建国の歴史は浅い。イスラム教の聖地メッカとメディナを擁しておりアラブの名士といわれるゆえん。禁酒や世界で唯一女性の自動車運転を禁じるなど(2018年6月以降解禁方向)戒律は厳しいが、王制の手厚い保護のもと、国民は忠誠心を誓う。国土の1/3を占める砂漠は国の中央部に広がり、内陸部では高温乾燥、海岸地域は高温多湿である。

### (2) 政治・経済

国王が司法・行政・立法の政治の全てを決定する君主制。国王や皇太子の任命には王族で構成される忠誠委員会での承認が必要。近いうちにサルマン現国王からムハンマド・ビン・サルマン皇太子への生前譲位が行われるとの見方も根強い。原油減産の影響を受け、2017年の第2四半期はマイナス1.0%と第1四半期より悪化。但し、IMFでは原油価格の底打ちを背景に年後半から回復傾向に入り、2019年はプラス1.6%と今後緩やかに回復が継続することを見込んでいる。石油関連製品が輸出の9割を占め、貿易収支は黒字が継続するものの、原油価格の下落に伴い黒字幅は縮小。2015年から介入したイエメン内戦軍事費の拡大などもあり財政は悪化、2014年以降の外貨準備高は減少が継続している。2016年4月には、①補助金削減と国民負担の負担増、②アラムコ社の株式一部上場(2兆円規模)と投資ファンドへの資金移管、③ファンド資金で民間部門を育成し、経済の門戸開放を進めて石油外収入を強化し、財政収支均衡を目指すという骨子のVISION2030を発表した。また付加価値税、物品税、人頭税などを導入し、イスラム債(スーク)や国際による資金調達を継続している。

(国際部 片岡 昭彦)

### 公正取引委員会による講演会

12月6日(水)、経済委員会は公正取引委員会より講師を招き、近年特に重要な問題となっている「事業者団体における独占禁止法コンプライアンス」と題した講演会を名古屋市内にて開催、約70名が参加した。

公正取引委員会では、平成28年12月に、「事業者団体における独占禁止法コンプライアンスに関する取組状況」についての調査結果を公表した。直近10年間での独禁法違反事件のうち、約1割は事業者団体が関与している。しかしながら、公表結果によると、事業者団体の独禁法コンプライアンスに対する取り組みはあまり進んでいない。

そこで、講演では取り組みの重要性や、「会合後に構成事業者のみが残って情報交換を行わない

よう、全員の退室を確認してから団体職員が退出する」「会議室等を提供する際は、独禁法違反に抵触するような情報交換等を行わない旨の誓約書の提出を徹底する」等、実際の取り組み事例が紹介された。

また、取り組みの推進のために、団体の事務局代表者が重要性について積極的に発信していくこと、企業・他団体の取り組みを参考にして課題を把握すること等が効果的であるとの説明があった。

最後に、「構成事業者が安心して団体活動へ参加できる環境づくりを進めて欲しい」「業界や組織をより良いものにするため、構成事業者は自社の取り組み等を積極的にアドバイスして欲しい」と団体事業者、構成事業者双方へメッセージが送られた。

(調査部 大西 一樹)

## 中部—新潟線

2018  
1/15から2/28まで



中部国際空港利用促進協議会

# 日帰り出張・ビジネス 応援キャンペーン!!

セントレアから  
新潟へは、  
毎日2往復運航。

このうち早朝出発・夜帰りの便の利用では、新潟に長く滞在でき、ビジネスに最適な時間を過ごすことができます。

新潟でのビジネスに、ぜひご活用ください。

※夕方出発(18:35→19:35)・朝帰り(9:05→10:10)の便も  
ございます。スケジュールにあわせてフライトをお選びいただけます。



【ANA1811】

中部7:35→新潟8:35

滞在11時間30分

【ANA1812】

新潟20:05→中部21:10

1/15から2/28までのキャンペーン期間中、上記の中部—新潟線をご利用いただくと、  
「新潟の美味しい特産品」をプレゼント!!

詳しくはホームページをご確認ください URL: [http://www.centrair.jp/resource/multi/pdf/niigata1day\\_jp.pdf](http://www.centrair.jp/resource/multi/pdf/niigata1day_jp.pdf)

